

# 図書館だより

1992. 5. 10

第14巻1号

通巻121号

Bulletin of the Hokkai Gakuen University Library

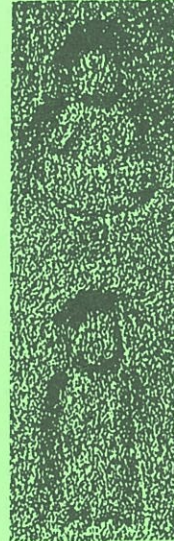
## 書彩風彩

(1)

### 武蔵野の風

とはいえ、時は五月だ。  
 若いみどりは萌え止まぬは。  
 後基一人なしとて、天下の夏が後ろ  
 向きするものか。  
 残る方々よ。いよ強く世に生き給  
 えや!?

「みなかみ帖」より



青春はいつも若葉のごとくさざめき

吉川 英治 『私本太平記』

青春はいつも風の中だ。いやあらしかもしれない。かつて、国木田独歩が「武蔵野」の風を「たちまち遠く、たちまち近し、春や襲いし、冬や遁し。」と書いたごとく。

青春の高氏（のちに尊氏）が聴いた風は、それよりももっと激しい乱世の風だったろう。

武蔵野の奥はるか、足利の庄の森の中、「ばんな寺」で見た祖父の「置文（遺言）」には「我より三代で、北条討つべし」とあった。高氏、時に20歳。

その2年前、18歳の高氏は近侍、一色右馬介を伴った京見物の帰路、世相を論難し、風発する若い公卿を見た。反北条の急先鋒を「日野俊基朝臣」と知ったのは、もう一人の高氏、佐々木道誉の招きで伊吹の城を訪れた時である。

そこで、高氏は田楽姫、藤夜叉を知る。

のちに、日野俊基は鎌倉で処断される。彼の死は、幾十年を戦乱とした時代の最初の火となった。

くわしくは『人間春秋—戦争と平和の世紀みつめて』（10～11ページ）をごらん下さい。

(K)

# あなたの声を

図書館長 米 森 文 嗣

新参館長は、山鼻の工学部から豊平への「<sup>カゴイ</sup>通」です。建築学科で都市計画なる分野を受け持ち、私達が住む“まち”を安全・健康・快適で、格差の少ない場にするにはどうしたらよいか、30~50年先に向けて今何をすべきかすべきでないか、大学卒業頃から学び考え始めて、もう30年もたってしまいました。その一端を学生諸君に語り続けてきたわけですが、歴史小説や推理小説、哲学めいた本は大好きなのに肝腎の専門分野の本を開くとすぐ眠くなってしまふような困り者です。でも、それらの事について、“まち”を歩き廻り、山や海の自然に身を委ねつつ黙考するのは好きです。趣味といえばそのぐらいのことでしょうか。

館長就任、約一カ月。図書館の様子や課題がほんの少し分ったような気になりかけていました。

ある朝、春雨の空にぽつぽつと白く浮かんだモクレンをぽおっと眺めていたら、ぽつとあることに気がきました。図書館の最多利用者であり、図書館のあり方を左右するはずの学生諸君の声を、まだ少しも聴いていなかったことに。

あなたの声を聞かせて下さい。批判、要望、提案など、あなたの声を。これまでも、『図書館だより』に、あなた方の寄稿やアンケート結果などが

掲載されたことがありますし、投書箱も置かれています。でも、もっと聴きたいのです。

下に、いくつかの間を思いつくままに用意してみました。一言でも一行でも寄せて下さい。

図書館員の方々を傷つけるのでは、といった気遣いは無用です。繊細で意欲的な館員(24人)ですが、結構、強靱な神経の持主のようですから。

寄せられた声にどれだけ応え、実現できるかは分かりません。今すぐは不可能でも、何年か何十年か後には是正、実現されるかもしれません。

あなたの先輩の多くがここを訪れたことでしょう。そして、後輩達もこれからずっと将来まで訪れるはずで。この図書館を、どんな図書館に創りあげて行くかに参画している沢山の人の、あなたもその一人なのです。

下の設問部分をコピーし、あなたの声(豊平の学生なら本館、山鼻なら工学部分室—2年生は本館—について)を記入し投書箱に入れて下さい。

青春の大切な一時をこの稿に割いて下さったこと、コピーの手間、コピー代、記入・投箱の労を無駄にはしないつもりです。よろしく。

(よねもり ふみつぐ 工学部教授)

- ① 開館時間帯は、最小限の希望として [平日]:朝\_\_\_\_時~夜\_\_\_\_時 [土曜]:夜\_\_\_\_時
- ② 開架書架に並んでいる図書は適切ですか。  
・もっとこんな図書を [例: \_\_\_\_\_]  
・学生には関係が薄いと思える図書 [例: \_\_\_\_\_]
- ③ 開架図書の量は十分ですか (○印を)—1. これどよい 2. もっと多く [5割増、2倍、\_\_\_\_]
- ④ 図書を探すのに目録カードをめくるのがめんどろで、やめてしまうことは—1. 有 2. 時々 3. 無  
① 有: どうしたら良いでしょう [\_\_\_\_\_]
- ⑤ レポート作成などのためにどんな図書類を参考にしたらよいか、館員は満足に行くまで相談のつてくれますか—1. 不満足 2. まあまあ 3. 満足  
① 不満足: こうしてほしい [\_\_\_\_\_]
- ⑥ A, V, (ビデオ、CD、…) 機器、ソフトは—1. いらぬい 2. あれば利用 3. 是非ほしい
- ⑦ 『図書館だより』については—1. よく読む 2. 時々読む 3. ほとんど読まぬい 4. 見たこともぬい  
・よく読む記事 [\_\_\_\_\_] ・望む記事 [\_\_\_\_\_]
- ⑧ その他、何でも (例: 階段がきつい、喫煙コーナーの煙が気になる…) [\_\_\_\_\_]

※ あなたは—[学生、院生]—[I部・II部]—[経、法、工]—[1, 2, 3, 4年生]

# フセイン大統領と 「平和に対する罪」



加藤 信行

国際法のなかでも全く地味な分野を専攻している小生であるが、ここでは、最近の派手な事件にまつわる論点の1つとして標記の話題を取り上げ、これを簡単に考察してみよう。

一昨年のイラクによるクウェートへの侵攻とその併合は、現代国際法における武力不行使原則に、明らかに違反するものであった。国連憲章上、例外的に武力行使の許される場合が4つある。第1に、安全保障理事会（安保理）による軍事的強制措置（42条）、第2に、「武力攻撃の発生」を条件として暫定的に認められる個別的・集団的自衛の権利（51条）、第3に、安保理の許可を前提条件とする地域的取極・地域的機関による強制行動（53条）、そして第4に、いわゆる旧敵国条項に基づく措置（53条、107条）である。イラクの行為は、これら例外のいずれにも該当しない侵略行為であった。

ところで、ニュルンベルク国際軍事裁判および極東国際軍事裁判（東京裁判）は、第2次大戦におけるドイツ・日本の戦争指導者を、とりわけ「平和に対する罪」によって処罰した。「平和に対する罪」（crimes against peace）とは、侵略戦争または国際法違反の戦争を計画・準備・開始・実行し、またはこれらのための共同謀議に参加した罪、をいう（各々の裁判所条例6条、5条）。この先例からすれば、国際軍事法廷を設置し、そこでフセイン大統領個人を裁くことは、必ずしも法的に不可能ではない。他方、多国籍軍の行動は、正規の国連軍による強制措置の発動ではないものの、安保理の武力容認決議（一連の関連諸決議を実施し、国際の平和と安全を回復するために「あらゆる必要な手段」をとることを容認する決議）をふまえており、決議の経緯と内容に鑑み、いわゆる朝鮮国連軍（勿論これも本来の国連軍ではなかった）と比較しても、より大きな客観性、有権性を具えている。従って、強制措置の授權（あるいは解釈によっては集団的自衛権）に基づく武力行使と解

されるものであり、従来の無差別戦争観が否定されている以上、現行国際法を前提とする限り、ブッシュ大統領をフセイン大統領と同列に論じることはできない。

フセイン大統領のほうは、「平和に対する罪」の適用が問題となりうる。しかし、第2次大戦の戦後処理においては、枢軸国の国内体制の根本的な変革という連合側側の政治目的の一環として、「勝者による裁き」が可能であったのに対し、湾岸問題に関しては、かかる政治的条件が伴わなかった。一般に、個人の犯罪について国際法が規律する場合、普通は、海賊にしても、ハイジャックにしても、各国が、関連の国際法の受け皿となる国内法に基づいて、国内裁判所によって訴追・処罰するというかたちをとる。国内法を媒介とすることなく、国際裁判所が直接国際法に基づいて個人を処罰することは異例であり、上記2つの国際軍事裁判所による戦争指導者の処罰が初めてである。しかも「平和に対する罪」については、その後も先例はなく、法典化の努力も結実していない。国際刑事裁判所は存在せず、残るは国内裁判所であるが、かりに、「平和に対する罪」が、いわゆる普遍主義の適用をみる犯罪であるならば、フセインを現に抑留しえた国が裁判権を行使できることになるが、その実現性の問題以前に、普遍主義が適用される犯罪かどうか自体、極めて疑問である。かくて、実定国際法規性の希薄な「平和に対する罪」による処罰は、関係諸国の強固な政治的意思が存在しない限り、実現する見込みは殆どない、といわなければならない。

なお、本小稿を国際法の基礎から理解するためには、例えば、最新の国際法テキストとして、杉原高嶺・水上千之・白杵知史・吉井淳・加藤信行・高田映著『現代国際法講義』（有斐閣、1992年6月刊行予定）の第3章、8章、13章などを参照されたい。

（かとう のぶゆき 法学部助教授）

# ヒマラヤ紀行

高橋伸幸



チベット高原からのチョモランマ峰

1991年3月、明治大学チョモランマ峰遠征隊学術班隊員として、初めてヒマラヤの地に足を踏み入れた。我々の遠征の目的はチベット側から世界最高峰のチョモランマにアタックしようというものであったが、その出発点となったのは山脈南側の小国ネパールの主都カトマンドゥである。

4,000万年前、インド大陸とユーラシア大陸との衝突によって隆起を始めたヒマラヤ山脈は、標高8,000mを越えるまでになり、東西2,000kmに及ぶこの大障壁は、その北側と南側とにまるで異なった自然環境や風土をつくり出している。モンスーンの影響をまともに受ける山脈南側は降水量が多く、深い谷が刻まれている。我々の乗ったトラックは、その谷壁にかりうじてつけられた道をチベットへ通じる峠に向かってゆっくりと登っていく。すぐ脇には奈落が顔を覗かせている。国境が近づくにつれ、チベット人の姿が多くなっていく。顔かたちが我々とまるで同じ彼らを見ていると、日本人のルーツに巡り会ったような感覚にとられる。

峠を越えると、その光景は一転する。モンスーンの影響が断たれたヒマラヤ山脈北側には荒涼としたチベット高原がどこまでも展開し、そこから振り返ると乾いた大地の上に白き神々の座だけが輝いている。ここは標高4,000mを越える高地。

砂塵と寒気に曝されたトラックの荷台に揺られているだけでもつらいが、空気の薄さはそれ以上に応える。思考力の低下と地に着かぬ足どり、それに続いて頭痛と息苦しさ襲ってくる。しかし、こんな所にさえ人間は生活している。道端に忽然と人家が現われ、果しなく続く大地の彼方から馬をひいた人間がやってくる。平気な顔をして生きている彼らに人間本来の凄さ、逞しさを感じる。

4日間トラックに揺られ続けた後、ヒマラヤの山懐に抱れたチベット最奥の集落に到着した。ここは、まさにチベットのチベットである。こんな所にも近代文明の波は押し寄せつつあるが、この人々の生活を大きく変えるまでには至っていない。ヤクやヒツジを飼い、痩せた土地を耕して生活の糧を得ている。ヤクの糞が塗り込められた石積みの家には僅かな家財道具が見られるだけで、電燈などは勿論ない。そして、泥と垢にまみれた子供達は無邪気そのもので屈託がなく、若い娘達は明るい皆はにかみ屋だ。全ての人々が純朴そのものである。大自然に抱れた生活が今も続いている。

この集落を後にして、チョモランマ・ベースキャンプを目指した10日間以上に及ぶ我々のキャラバンが始まった。

(たかはし のぶゆき 教養部助教授)

## 新着図書 — 教養部

宇宙を創る四つの力 P.C.W.デイヴィス/物理学者は山で何を考える J.S.トレフィル/シュレーディンガーの猫 上、下 J.グリビン/巨大分子雲と恐竜絶滅 藪下信/アインシュタイン神話 A.J.フリードマン C.C.ドンリー/時の始まりへの旅 H.R.パーフェル/物理学者は空を見て考える J.トレフィル/地球環境をつくる太陽 桜井邦朋/未完の宇宙 L.B.ヤング/ポストモダン科学と宇宙論 S.トゥールミン/新数学事典 一松信 松之内脩編 改訂増補版/周恩来と私 熊向暉/太平洋戦争の起源 入江昭/新漢英字典 春遍雀来編 研究社/地球を救え ジョナサン・ポリット編/スペインと私 三宅真/トマス・ハーディの全小説を楽しむ 中村佐喜子/国境を越える環境汚染—シュヴァツァーハレ事件とライン川 石黒一憲/欧米ビジネスロー最前線 東京リーガルマインド編 民法法研究会/芸術と情報コミュニケーション 岡本重温/われら北歐人 W.ブラインホルスト/勝機は心眼にあり 球禪一如の野球道 川上哲治

# 書

# 評

## 明治ニュース事典 全八巻 総索引1巻 毎日コミュニケーションズ出版部

「明治ニュース事典」編纂委員会 1983-1986年  
この「明治ニュース事典」は、わが国における新聞草創期から近代新聞（明治元年（慶応4年）—明治45年）への発達期にわたる重要と見なされる政治・経済・社会・文化、あらゆる分野の事件・出来事を時期ごとに集大成した歴史辞典・歴史書でもある。

### (1) 掲載記事の内容

明治という時代の特色を有した記事を優先した・もちろん、わが国近代史を研究する上で欠くことのできない各分野の出来事を完全に網羅している。特に、事件・出来事の中に含まれる事件名・人名・地名・団体名等については、各分野の専門史家、明治新聞研究家の判断を仰いで、幅広い角度から、「明治」を把えるように努めている。

### (2) 編集構成

各巻の巻頭には明治の写真資料と主要な記事を複製として収録し、また、巻末には条約、法律をはじめとする主要なデータ類を資料編として掲載している。配列は「五十音順一般索引」「分類別索引」「年次歴史索引」の三種類の索引が付されている。

総索引にはあらゆる重要な人物、事項、事件等を五十音順に並べ、巻名、ページ、掲載段数が一目で判るようになっている。

この事典の基本資料は、日本で最も古い歴史を持つ「東京日日新聞（現毎日新聞の前身）」をはじめとする日刊新聞発行以前の週刊的な諸新聞・日誌類等から幅広く記事を収集している。

本学図書館に所蔵 (U)

## ラテンアメリカ文化史—2つの世界の融合— マリアーノ・ピコン=サラス著

グスタボ・アンドラーテ／村江四郎訳 改訂版  
サイマル出版会 1991

今年、1492年10月12日のコロンブスの新大陸発見から500年目に当たる。最近、スペインでバルセロナ五輪が開催されることもあり、ラテンアメリカ（新大陸におけるスペイン植民地）の文化への関心が盛り上がりを見せている。この本は、新大陸発見の世界史的な意味を、ラテンアメリカの西欧文明化・近代化の幕開け、及び、スペイン植民地史としてスペインを礼讃する歴史観を排し、また、反対にスペインによる侵略の犠牲となった民族・国家の歴史として一方的にとらえるわけでもなく、バランスのとれた学説を展開している。

著者、ピコン=サラスは、ベネズエラ人としてラテンアメリカ文化をその内側から解釈した。

著者は、ラテンアメリカ文化はいかに創造されたのか、そこにはどのような精神的諸要素が流れこんでいるのか、新世界との接触はヨーロッパ文化にどのような変化を及ぼしたのか、そして、メスティソ（白人と先住民の混血）の精神から何が生み出されたのだろうか、という問いに答えている。(S)



## 教養部 — 新着図書

北大陸上競技史 1878-1990 佐藤幸雄 北大図書刊行会／霊長類社会の進化 伊谷純一郎／ラマルク伝—忘れられた進化論の先駆者— Y.ドゥランジュ／アインシュタインはなぜアインシュタインになったのか 金子務／海流の贈り物—漂着物の生態学— 中村弘樹／分類から進化論へ 今泉吉典／夢は科学が妄説か—古代中世の自然観— 市場泰男／洪水と治水の河川史—水害の制圧から受容へ— 大熊孝／眼はなにを見ているか—視覚系の情報処理— 池田光男／粉の秘密・砂の謎 三輪茂雄／ペストと都市国家—ルネサンスの公衆衛生と医師— C.M.チボラ／工作機械の歴史—職人の技からオートメーションへ— L.T.C.ロルト／水車の歴史—西欧の工業化と水力利用— T.S.レイノルズ／蒸気機関からエントロピーへ—熱学と動力技術— D.S.L.カードウェル／塩の世界史 R.P.マルソーフ／環境百禍—Zoom Up— 中村悟郎／地球を救え ジョナサン・ポリット編／利己的な遺伝子 R.ドーキンス／地球と生きる 55の方法 ガイアみなまた企画 下郷さとみ編

## レファレンス・サービス編

### 1. 資料の案内

事柄・データなどの事項調査や図書についての書誌調査、及び、図書館利用上のあなたのご質問にお答えいたします。図書館では、事項調査・書誌調査などの質問に対し、どのようなレファレンス参考資料を使えばよいかを案内し、調査の援助を行っております。また、資料を効果的に利用していただけるように目録の使い方の案内も併せて行っております。資料や施設の所在、貸出など、わからないことがあった時は遠慮なくカウンターでお問い合わせ下さい。

### 2. 論文を書く人のために

授業によっては、論文やレポートを提出することがあります。論文を書くための資料や文献の探し方がわからないときもカウンターにご相談ください。参考資料や文献を紹介します。

### 3. レファレンス資料

レファレンス資料とは、データや情報を一定の体系に従って集約した資料で、いわば、ものを調べる道具といえます。

レファレンス資料には次のようなものがあります。

- ① 辞典、百科事典、地名辞典、地図、各専門分野の辞・事典—2 F、3 Fの各レファレンス資料コーナーにあります。
- ② 年鑑、統計、白書—最新の統計データや時事的なテーマについて知るのに役立ちます。2 F書架番号0番の南側にあります。スペースの関係上最新版のみ配架してありますが、以前の年度分が必要な場合はカウンターにお申し出ください。
- ③ 人名辞典、名鑑—その人物の略歴、業績、また外国人名の原綴りなども調べられます。
- ④ 書誌—その著者の著作一覧やその主題・テーマに関する図書・雑誌・新聞記事等の文献一覧（3 F東側書架：本学の雑誌、紀要、新聞の所蔵については図書と同じく著者目録で検索して下さい。）があります。また、出版目録（3 F東側書架）や他図書館の蔵書目録（著者目録で大学名から検索して下さい。）も含まれます。
- ⑤ 索引、抄録—索引は求める記事や論文の雑誌や図書群中の所在位置を書名や著者、主題、件名から迅速に検索するためのものです。また、抄録は索引事項に簡単な内容の説明をつけたものです。（S）

## 新着図書 — 法学部

国際政治 季刊—98 日本国際政治学会編 有斐閣／注釈会社法 15 総索引 上柳克郎 [ほか] 編 新版／現代民事裁判の課題 9 医療過誤 (山口和男 林豊編) 新日本法規／現代国際法の課題 田畑茂二郎／条約法の理論 小川芳彦／国際化・美しい誤解が生む成果 大沼保昭編／国際機構条約資料集 香西茂 [ほか] 編 改訂版／比較政治学の新動向 H.J.ウィーアルダ編／近代国際関係の断面 小木曾本雄／労働契約論・団結権論 日本労働法学会編／権力・知・日常 ヨーロッパ史の現場へ 長谷川博隆編／ナチス・ドイツ ある近代の社会史 ナチ支配下の「ふつうの人びと」の日常 デートレフ・ポイカート／近代日本の国民国家と地方自治 比較史研究 山田公平／世界システムの動態 世界政治の長期サイクル ジョージ・モデルスキー／ドイツ女性の社会史 200年の歩み ウーテ・フレーフェルト編／交渉・同盟・戦争 東アジアの国際政治 猪口孝／日本議会史録 1-6 (全6巻) 内田健三 [ほか] 編／ドイツ法律用語辞典 山田晟 補正版／行政組織法の諸問題 塩野宏

## 日本・スペイン交流史

### 1. 日本とスペイン

この夏には、スペインのバルセロナでオリンピックが開催されます。このところの旅行ブームを反映して、スペインへ行く日本人観光客はうなぎ昇りです。また、1992 年は、世界が注目している EC 統合が進行中です。アメリカ、CIS そして日本に対抗する人口 3 億人を持つ経済的強国が生まれることとなります。その一員であるスペインに、日本のビジネス界は、いま大きく目を向けています。今後、日本とスペインとのつながりはより強く、密になることでしょう。

また、今年、1492 年にスペイン人であるコロンブスがアメリカ大陸を発見してから 500 年目に当たるといふことで、スペインが世界の国々を征服した時代～大航海時代～に歴史的な関心が集っています。当稿では、大航海時代から始まる日本とスペインの交流史について述べます。

### 2. 交流の始まり

#### ○ジパングー幻の日本

スペインの派遣したコロンブスの船隊が「ジパング」を目指していたのは有名な話です。彼を海のかなたへ誘ったのはマルコ・ポーロの「東方見聞録」です。現在、セビリアにあるコロンブス図書館には、1485 年にアントワープで刊行された「東方見聞録」が伝わっていて、その欄外にはコロンブス自身の手になる書き込みがあるそうです。スペイン政府は 16 C なかばまで 5 回も「ジパング」発見を目的とした探検船を派遣しつづけました。スペインはヨーロッパのどの国よりもはやくから、また長期間、熱心に「幻の日本」を追い求めた国でした。

#### ○フランシスコ・ザビエル

1549 年（天文 18）にフランシスコ・ザビエルが鹿児島に上陸しました。彼はわが国のキリスト教の始祖であると同時に、また日本文化史上に、きわめて大きな影響をおよぼした最初のスペイン人でした。1506 年、バクス地方のナバラに生まれたイエズス会創設者フランシスコ・ザビエルは、1541 年にリスボンを発ってインドへ向かい、翌 1542 年にゴアに着きました。ここで、日本最初のキリシタンとなるアンジロー（弥次郎）という日本人に出会い、洗礼をほどこしました。ここに日本最初のキリシタンが誕生しました。ザビエルは 1549 年（天文 18）にアンジローと 2 人のスペイン人宣教

師を連れて鹿児島に上陸し、薩摩藩主島津貴久に謁見しました。キリスト教がはじめてわが国に伝えられたわけです。

### 3. 豊臣秀吉とスペイン

#### ○天正遣欧少年使節

大友宗麟、大村純忠と有馬晴信の九州の三人のキリシタン大名は、天正 10 年（1582）1 月にアレックスandro・バリニャーノの斡旋で 4 名の少年使節をローマ教皇のもとへ遣わせました。少年使節たちは天正 12 年（1584）に無事ポルトガルの首府リスボンに着き、さらに、スペインのマドリットへ赴きました。一行は国王フェリペ 2 世に謁見し、九州の三大名から国王に宛てた書状を奉呈しました。

公式の使節としてスペイン国王に謁見したのはこれがはじめてであり、ここに両国交渉史上に記念すべき一歩が印されました。

### 4. 徳川家康とスペイン

#### ○朱印船貿易

徳川家康は 1600 年（慶長 5）、関ヶ原合戦で勝利を収め、政権を握ると早々に海外貿易に関してスペイン領であるフィリピンのマニラに、毎年数隻の御朱印船が渡るようになり、交易はわが国が鎖国を行うまでつづけられました。

#### ○キリシタン禁止令

執拗にキリスト教布教の許可を家康に求めつづけていたスペイン人に対して、幕府は 1612 年（慶長 17）にキリシタン禁止を発令し、京都の教会堂を毀すという挙に出ました。また、翌々年の 1614 年（慶長 19）にはキリシタン大名として知られていた高山右近をマニラに追放したのを始め、その他 147 名もマニラやマカオに追放しました。1622 年（元和 8）にはキリシタン 55 名が長崎で火刑や斬首の刑に処せられたいわゆる元和大殉教の事件が起っています。翌 1623 年（元和 9）にマニラから来船した使節は、ついに將軍への謁見さえ許されませんでした。こうしてフィリピンとの通商関係は絶たれてしまいました。すなわち、スペインとの交流史にも事実上、終止符が打たれたわけです。

日本は、こののちオランダ一國が長崎の出島で交易を行う鎖国の時代にはいつていったのです。

#### ○開国後

開国後の日本とスペインの関係は、1869 年（明治 2）に通商条約が締結されて国交が再開されて以来、今日に至っております。 (S)

# 展示会のお知らせ

## "スペインの本" 展示会

(図書館展示企画 No.16)

場所：北海学園大学附属図書館1F

：展示コーナー

期間：平成4年5月6日～8月31日

### "スペインの本" 展示目録

#### 1. スペイン史

- 081 C 64 コロンブス(中公新書936)/青木康征 中央公論社 1989
- 081 Ko 19 バルセロナ～自由の風が吹く街～(講談社現代新書1067)/岡村多佳夫 1991
- 208 D 21 大航海時代双書 I 航海の記録 コロンブス/アメリカ/ガマ/バルボア/マゼラン  
" III, IV 新大陸自然文化史上,  
下 アコスタ  
" VII フィリピン諸島誌/モルガ  
" 別巻 概説/年表/索引  
" 第2期 6, 7 イエズス会と日本1, 2  
" 12 征服者と新世界 サアゲン/コルテス/ヘレス/カルバハル
- 209 Se 22 アメリカ大陸の先住民(カラーイラスト世界の生活史9) 東京書籍 S. 60
- 209 Se 22 世界の国15 スペイン・ポルトガル 講談社 1977
- 209 Se 22 全訳 世界の歴史教科書シリーズ11 スペイン その人々の歴史/神吉啓三, 小林一宏訳 帝国書院 S. 55
- 209 To 72 カタロニアへの眼～歴史・社会・文化～(刀水歴史全書1)/樺山紘一 刀水書房 1979
- 209.6 D 81 スペイン革命(ドキュメント現代史7) 平凡社 S. 48
- 209.6 Se 22 スペイン・ポルトガル現代史(世界現代史23)
- 236 H 55 スペイン革命の生と死(三省堂選書94)/東谷岩人 1986
- 236 Ka 96 新スペイン内戦史(三省堂選書133)/川成洋, 渡部哲郎 1986
- 236 P 61 スペイン精神史序説/R. M. ピダグ著, 佐々木孝訳 法政大出版 1987
- 236 V 83 スペイン/J. ビセンス・ビーベス 小林一宏訳 岩波 1987
- 236 W 49 イスラーム・スペイン史/W. M. ワット, 黒田寿郎他訳 岩波 1976
- 236.07 B 63 スペイン革命～全歴史～/バーネット・ホロテン, 渡利三郎訳 晶文社 1991
- 236.07 Th 5 スペイン市民戦争 I, II/ヒュー・トマス, 都築忠七訳 みすず書房 S. 43
- 236.07 So 52 スペイン人民戦線史料/J. J. L. ソペーニャ編著 法政大出版 1980
- 237 Ma 23 ヴェネツィア(岩波現代選書25)/W. H. マクニール著, 清水廣一郎訳 岩波 1978
- 255 P 59 ラテンアメリカ文化史/マリアーノ・ピコン=サラス著 サイマル 1991
2. スペイン紀行・案内記・探検

- 290.8 Se 22 すてきな旅 スペイン・ポルトガル(世界文化シリーズ8) 世界文化社 S. 57
- 290.9 A 68 スペインの旅(エアリアガイド121) 昭文社 1987
- 290.9 A 82 朝日旅の百科 海外編3 スペイン I 朝日新聞社 S. 54
- 290.9 C 44 地球の歩き方23 スペイン・ポルトガルダイヤモンド・ビッグ社 1989
- 290.9 C 44 地球の歩き方 成功する留学E 初めてのスペイン留学 同
- 293.6 Ka 22 スペイン 光と影/梶上英郎 人間の科学社 S. 56
- 293.6 Ko 75 スペイン子連れ留学/小西章子 精興社 1980
- 293.6 Mi 76 スペインと私/三宅真 三月書房 1990
- 293.6 Ts 34 私のスペイン案内/津田正夫 主婦の友社 S. 52
- 293.6 Ts 41 アンダルシア物語/辻光博 書し季節社 1983
- 293.609 W 35 童具(おもちゃ) デザイナーのスペイン/和久洋三 玉川大学出版部 1985
- 298 Sk 世界探検地図～大航海時代から極地探検まで～/R. A. スケルトン 原書房 1987
- 298 Sk 図説探検地図の歴史 原書房 1992
- #### 3. スペイン建築
- 520.8 B 26 ガウディの作品～芸術と建築～ 六曜社 1985
- 523.33 A 41 ガウディのバルク・グエル/E. アルバラン著 東洋書店 1989
- 523.337 J 52 ヴェネツィア～都市のコンテクストを読む～(SD選書200)/陣内英信 鹿島出版 S. 61
- #### 4. スペイン美術
- 708 G 34 現代世界美術全集14 ピカソ 集英社 1979-1980  
18 エルンスト/ミロ  
23 グリ
- 708 Sc 1 プラド美術館(スカラ/みすず美術館シリーズ3) みすず書房 1990
- 723.36 G 45 ピカソとの生活 フランソワーズ・ジロー他著 新潮社 1972
- 723.36 H 21 ピカソ偽りの伝説上, 下/A. S. ハフィントン著 草思社 1991
- 723.36 P 59 イカロスの墜落/パブロ・ピカソ, 岡本太郎訳 新潮社 1974
- 723.36 R 79 絵画への愛～ゴヤ・ピカソの世界～/クロード・ロワ 法政大学出版局 1974
- 723.36 F 23 ゴヤ/リオン・フォイトヒトヴァンガー著 美術出版社 1982
- 723.36 H 96 ゴヤ 1～4/堀田善術 新潮社 1976-1977
- #### 5. スペイン語
- 860.7 I 98 スペイン語入門(中公新書21)/井沢実著 中央公論社 S. 42
- 860.7 Sh 77 スペイン語の基礎/寿里順平 東洋書店 1989
- 865 Ka 72 スペイン語四週間/笠井鎮夫著 大学書林 S. 52
- 865 U 86 改訂スペイン語の入門/瓜谷良平著 白水社 1989



- 865 Su 77 基礎スペイン語文法／寿里順平 東洋書店 1989
- 865 Ta 33 新スペイン広文典／高橋正武 白水社 1970
- 867.8 H 94 英語から学ぶスペイン語会話／細川幸夫 創拓社 1991
- 6. スペイン文学**
- 908 N 95 カタロニア賛歌(ノンフィクション全集 24) ジョージ・オーウェル 筑摩書房
- 915.6 H 96 スペインの沈黙／堀田善衛 筑摩書房 1983
- 960 A 68 パースの城／ブラウリオ・アレナス, 平田渡訳 国書刊行会 1990
- 963 A 68 めくるめく世界／レイナルド・アレナス 鼓直他訳 国書刊行会 1989
- 963 C 25 もう一つのゲルニカの木 ルイス・デ・カストレサナ著 平凡社 1991
- 963 G 21 百年の孤独／G. ガルシア＝マルケス, 鼓直訳 新潮社 1982
- 963 V 24 春のソナタ／ラモン・テル・バリエ＝インクラン 星雲社 S. 61
- 908 Se 22 セルバンテス 1, 2 (世界文学大系 25, 26) 筑摩書房 1969
- 908 Se 22 セルバンテス (世界の文豪双書 3) エンツォ・オルランディ編 評論社 S. 51
- 081 I 95 ドン・キホーテ正編 1-3, 続編 1-3 / セルバンテス 岩波文庫
- 963 H 49 ドン・キホーテ候 (双書ウニベルシタス) P. アザール 法政大出版局 1988
- 964 O 25 ドン・キホーテの食卓 (新潮選書) / 萩内勝之 新潮社 S. 62


(S)

ポスター

**"スペインの本" 展示会**  
 ～コロンプス／アメリカ大陸発見 500周年からバルセロナ五輪まで～

(図書館展示企画 No.16)

場所：北海学園大学附属図書館 1F：展示コーナー  
 期間：平成4年5月6日～8月31日



- 1. スペイン史
- 2. スペイン紀行・案内記・探検
- 3. スペイン建築
- 4. スペイン美術
- 5. スペイン語
- 6. スペイン文学

メテオの音楽

耳の読書

図書館と放送局の間

眠れぬ夜がある。

ある時、ふとラジオを入れると、朗読の声音が聴こえてきた。NHK、「吉川英治名作選」の『私本太平記』

俳優の林隆三氏の押しこもったような声に思わず引きこめられてしまった。

「藤夜叉」が「草心尼」が、という耳なれない名前が出てくる。

「オヤ、これが太平記か」と思ううちに「吉田兼好」が登場する次第。どうやらこれは「本物」だと思ひ図書館の書棚から『私本太平記』を取り出して読みはじめた。

読み進めるうちに、吉川英治の広大な世界がひらけて来た。まさしく、「人間春秋」そのものではないか。

もし、林隆三氏の声で聴かなかつたら、おそらく吉川英治の『太平記』は読まなかつたらう。今でも続いていて、読んでしまったところを聴くと随分と読みもらしていることがわかる。「読書百遍おのずから通ず」とか。しかし朗読を聴けばそれは千彩に通ずる。

読書とは「音声」からくるのではないか。音のよくよう、強弱、と色彩がある。これもある日、放送記念日のラジオ特集でNHKのアナウンサーと永六輔氏が対談していた。あの神田生れの六輔氏が例の早ことばでアナウンサーをたじたじさせていたが、最後になって「ところで、かしまらはるこさんはお元気でしょうか、どうしてらっしゃるのか」と二度たずねた。「随分、私の本を読んでいたで大変感謝してます。」

六輔氏の言葉は、あたかも、「NHKのアナウンサーはニュースを棒読みしたり、ハガキの便りを読んだりするよりも、もっと読むものがある。それは名作ではないか」と言っているように思えた。

(K)

教養部——新着図書

サミュエルソン経済大系 7 P.A.サミュエルソン 篠原三代平 編／日本のビッグビジネス 4 大月書店／市場社会の経済学 佐伯啓思／経済学の歴史 根岸隆／ミクロ経済学 林敏彦／労働経済学 小野旭／消費者の経済学 井原哲夫／金融 岩田規久男／マクロ経済学 新開陽一／計量経済学 養谷千風彦 第2版／日本経済の成長史 西川俊作／公共経済学 柴田弘文／財政 牛嶋正 第2版／社会保障の経済学 村上雅子／国際経済学 山沢逸平／現代原価計算 松岡俊三／アメリカ大不況 歴史的経験と今日的意味 マイケル・A.バーンスタイン／流通と価値の経済学 中川清／現代経済体制と経済政策 津田直則 [ほか]／日本の製品輸入 1990 日本貿易振興会編集／現代中国の企業経営 経済体制改革後の動向と展望任文俠／基本貿易取引 大崎正瑠／経済史—西と東 浅羽良昌編／経営者企業の時代 森川英正編／現代日本を解体する 多元論的経済学のおすすめ 坂内仁／カナダ経済史 リチャード・ポムフレット／商法会計規定の実務 並木俊守／商業簿記概論 伊東宏祐 [ほか]

# 〈花風礼愛〉

## 乱世を絹とし生ける影法師

— 兼好がみた「弱き者たち」

「ああ、おすこやかよ。

あれはもう 20 年も前の春でしたな。  
けれどあの折、お別れした時の通りなお手の  
温みが、思い出と共にあふれてくる。  
ただここに、母がいないのだけが淋しい」。

すずめをいつくしんだのは一茶だったろうか。  
すずめを肩にのせていた影法師は吉田兼好だった。

『私本太平記』によれば、『徒然草』は兼好の死後、あわててだれかが書きつけてあった張り紙のようなものを集めて編んだとある。

吉川英治は「私本」とした『太平記』で単に「強い者たち」だけを描かなかった。そこには、兼好が折りにふれ、出会った「弱き者たち」が描かれている。

**草心尼** 高氏の叔母に当る。その子は盲目の琵琶法師、覚一。京に出て修業するこの 2 人づれを兼好はどこかでかい間見たろう。

**藤夜又** あの 18 歳の高氏が出会った、田楽姫。その子直冬とは最後に闘うことになる。盟友、佐々木道誉に身をまかせた悔いから川に身を投げる。助けられたところは兼好の奄。平静を取り戻す姿に兼好の心がかすかに動いたようだ。

# 人間春秋

— 戦争と平和の世紀

みつめて

## 吉川英治生誕 100 年

卯木（うつぎ）楠木正成の妹。夫は伊賀の服部元成。京に出仕したが出奔し、名を雨路次と変えて申樂者となる。兼好はなじみのあるこの 2 人に河内の楠の領下で出会い、互いに身の上話をする。それによれば、兼好は失恋して出家したという。

**小右京** あの日野俊基朝臣の妻。やはり、あの佐々木道誉に口説れる。兼好は使者になってほしいと依頼されるものの受けながす。小右京のちに「覚一」の妻となった。

『私本太平記』にもう一人の影法師が登場する。**吐雲齋**。本名は大江時親とも毛利時親とも。

もとは北条の一族、故あって出奔し、楠正成の所領に住み、兵法を伝授していた。

彼こそは、足利 200 年、徳川 300 年の時を経て、明治維新の震源となった長州、毛利家の祖先だった。歴史の命脈を知る。 (K)

## 新着図書 — 経済学部

日本のビッグビジネス 12 大月書店/日本証券史資料 戦後編 2、3 巻 日本証券経済研究所編/社会調査 宝月誠 [ほか]/社会学の基礎 今田高俊/ケインズ全集 7 J.M.ケインズ 中山伊知郎 [ほか] 編/ケインズ全集 26 ケインズ 中山伊知郎 [ほか] 編/現代経営学選集 別巻 文眞堂/政治・経済時事用語&世界各国要覧 国際政治経済研究会編/日本経済地理読本 板倉勝高 [ほか] 第 5 版/独禁法の手引き 伊従寛編/農協の話 永田正造/銀行の話 斎藤健/短期金融市場の話 島謹三/証券市場の手引き 山一証券経済研究所編/公社債の話 後藤猛/金利の話 阿達哲雄/企業金融の話 阿達哲雄/日本経済史 石井寛治 第 2 版/日本近世商業史の研究 山口徹/営農集団と農協 矢崎俊治/経済構造調整下の北海道農業 牛山敬二/マルクス・レーニン主義事典 上・下・別巻 岡崎次郎/財政読本 野口悠紀雄編 第 4 版/転機—日本 IBM の挑戦— 千秋敏/株主の権利—法的地位の総合分析— 崎田直次編/ゼミナール会社法入門 岸田雅雄/資本主義と失業問題—相対的過剰人口論争— 重田澄男/会計理論の探求—会計情報システムへの記号論的接近— 杉本典之/マーケティング—商業の経営管理— 柏木重秋/簿記会計問題精説 蔦村剛雄

悪と善、鬼と仏、  
相反する二つのものを  
一体のうちに交錯してもつ  
ふしぎな御仁。

「藤原氏が亡んだのも、平家が亡んだのもまた北条が亡んだのも直接行ったものは武力という棒切れだが、案外それを望んだ意欲は民心という天邪鬼がさせた業だったかもしれない、と正成は歩るきながら考える」

## ぶらり駒、文人高氏!?

### 一大志はぐくんだ足利学校

「後醍醐と対決した一世の英傑」と『私本太平記』は言う。弟、直義は戦上手。すべて彼にまかせた風がある。ために、晩年は彼と戦い暗殺するために。

しかし、吉川英治は彼を「ぶらり駒」として又、「文人」として描いた。

『私本太平記』の冒頭ちかく、京見物の帰路、漢詩を詠じた高氏に近侍、一色右馬介をして「さてさて若殿には、御幼少から、よく足利学校の書庫で、沢山な書を御覧なので」と言わしめる。

足利学校は12世紀の設立というから、高氏よりも1世紀も前に出来ていた。外国では「坂東の大学」として知られていたという。それを伝えたのはフランシスコ・ザビエルとか。孔子を特に崇拝していたようだ。

一世の英傑は単に「武」だけで、あの乱世を治めえたらうか。「文」の才があったからだろう。

今から800年前に設けられた「足利学校」こそ「大志」はぐくんだ土壌だった。

## 我以外全て教師

### 一野なかの知求人

今年英治生誕100年。

子供の頃に読んだ『三国志』が彼の創作活動の源泉となった。『私本太平記』はどこか『三国志』の展開と似ている。

しかし、それは似て非なるものである。彼はこの作品に架空の人物、一色右馬介を創造し、高氏の分身として、楠木正成との交渉に当らしめる。それは成功せず正成は非業の死をとげるが、作者の心の中に、高氏と楠正成を結ぶ「平和の糸」を探し求めたふしがある。

未曾有の大乱、「南北朝」を吉川英治はやがて来るだろう「平和の花園」への陣痛として描いたようだ。右馬介は、あの「弱き者たち」をつなぐ「もう一人の影法師」ではなかったか。

吉川英治の座右銘は「我以外、皆教師」という。明治維新、大震災、太平洋戦争と「南北朝」にも劣らない大乱の世紀を生きた文人の魂は透明だ。我々はそこに「野中の知求人」をみる。

ミステリーに満ちた「南北朝」を今新しい作家が筆をとる。推理作家、森村誠一の『太平記』だ。

(K)

## 工学部

## 新着図書

光物性物理学 柳田孝司／ファインセラミックス基礎科学 浜野健也／科学方法論序説 自然への問いかけ働きかけ 高田誠二／色彩科学ハンドブック 日本色彩学会編／画像解析ハンドブック 東京大学出版会／LISPで学ぶ認知心理学 3 佐伯胖監修／今様建築のデザインを考える 建築構法計画の視眼 井口洋佑／住まいと町をつなぐ家づくり 新任環境読本 吉田桂二／認知科学通論 N.A.ステイリングス [ほか]／現代の家具と照明 デザイナーズ・ブランド・コレクションズ 大広保行／鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説 日本建築学会編集 1988改定／鉄筋コンクリート終局強度設計に関する資料 日本建築学会編集／壁構造関係設計規準・同解説 日本建築学会編集／小規模建築物基礎設計の手引き 日本建築学会編集／建築基礎構造設計例集 日本建築学会編集／ル・コルビュジエの建築その形態分析 ジェフリー・ベイカー／建築の形態言語 デザイン・計算・認知について ウィリアム・ミッチェル／現代の建築家 鹿島出版会／土は求めている 北海道農業フロンティア研究会編

# 山と「旅路」と経済学 未完成の編集から その1

## ケンブリッジへいただいた年賀状

柴田 義人

私は1966年(昭和41年)秋から1年間、ケンブリッジ大学などで海外研究生活を経験した。伊藤俊夫先生は、わざわざ私宅を訪問されて私どもを激励され、私の出発の際、早朝、札幌駅までお見送りをいただいた。そして先生から、1967年の年賀状が遥々ケンブリッジへ届けられたのだった。しかし私は、ケンブリッジ大学の新学期クリスマス・タームが終わり、オックスフォード大学で開催されたジョイント・セミナーに参加すると、すぐに南ヨーロッパへ放浪の旅に出た。この旅行は実はカイロで家族を迎えるべく計画したものだったが実現しなかった。だから精神的には放浪の名にふさわしい一人旅だった。

クリスマスのイルミネーションに輝くパリーを離れ、祈りの雰囲気にもちれたスペイン・ポルトガルを巡り、水害の跡も痛々しいフィレンツェを訪れ、新しい年を私はローマで迎えようとしていた。1966年の最後の夜、私はフルコース600リラ(350円)で年越そばの代りにスパゲッティを食べ、ワインで乾杯した。ペンションの夜も更けて激しい音に窓を開けると、華やかな花火とともに、空瓶が窓から路上に落ちてくるのには驚いた。ウイーンでは皿を投げる風習があると聞いたが、ローマでは夜を徹して飲んだ瓶を投げるのである。

新しい年の朝が来るとペンション経営のご夫婦と娘さんが揃って、にこやかに新年の挨拶をして廻る。それははずこも同じ、年の初めの晴れやかな情景だった。何年前からであったろうか、正月になると林昭健(札幌大学教授)小野寺万寿雄(北星学園大学教授)漆崎健治(小樽商大教授)の諸君と一緒に、先生のお宅にお邪魔するのが恒例となっていた。私はひとり、ローマの正月を体験しながら、心なごむこの新年の集いを想わずにいられなかった。

私は「冬の旅」を続けてギリシャに渡り、さらにカイロ、イスタンブールへと飛んだ。北海道の雪解けの頃に似たイスタンブールの街で、伊藤俊夫先生に札幌でお世話になった、というパリ在住の末永胤生画伯に偶然出合った。私たちは、アジアとヨーロッパの接点ともいえるべきこの地で、東と西の文化の交流を語り合い、遥かに札幌を懐しんだ。船でウシュクダラに渡るとアジアである。しかし私は望郷の想いに浸る間もなく、ケンブリッジに戻ったのだった。

伊藤先生からの年賀状を拝見したのは、この「冬の旅」から帰ってからであった。それは羊年に因んで、牧草を食む羊の群の美しい年賀状であった。

外国で一人暮らしをしていると、故国からの便りほど待たれるものはないが、先生からの年賀状には留守を案ずる便りが書かれ、先生ご夫妻の温かい思いやりが身にしみた。

ところでケンブリッジ大学の政治・経済学部にもスタッフ・コモン・ルームがあって、毎日、10時と4時のティ・タイムに、研究上はもとより、広く豊かな話題を楽しむことができる。私は早速、先生からいただいた半年の年賀状を披露した。緑の牧草に豊むイギリスでは、羊は到る処で放牧されている。イースターの春休みのイギリス旅行で、私はレイク・デストリクトでは小高い丘の上までエンクロージャーの跡がわびしく残っているのを見た。この羊の年賀状以来、スタッフ・コモン・ルームに北海道、札幌への親近感が深まったようであった。

今日10月30日に、伊藤俊夫先生は還暦のお誕生日を迎えられる。この拙文が、先生の還暦をお祝いすることになるならば幸いである。先生ご夫妻のご厚情に感謝するとともに、ご健勝とご活躍を心からお祈りしたい。(1967・10・30)

あとがき：去年の夏休み頃から、私は表題のような私の「断想集」の編集をはじめたが、完成しなかった。それでも『はじめて現代経済学を学ぶ君へ』という形で一部分を出版することができるようになった。これもひとえに、共同印刷の奥山・矢野両氏のご尽力によるものであり、記して、衷心より謝意を表したい。

この度、『図書館だより』のご厚意によって、この未完成の編集のなかから、未発表ないしは未定稿の原稿のいくつかを公表することになった。

因みに、今のところ、全体の構想は次のようなものである。

- Part 1 感謝の言葉に代えて
- Part 2 青春時代の山旅と「心の旅路」
- Part 3 『梟』と『こまくさ』に惹かれて
- Part 4 はじめて現代経済学を学ぶ君へ
- Appendix：海外研究生活の記録1966—67
- Part 5 教育四代の私的足跡を辿って

今回は、Part 1 感謝の言葉に代えてに編集予定であった「ケンブリッジへいただいた年賀状」が未発表であることが確認されたので、これを機会に掲載していただいた。(1992・4・29)

(しばた よしと 経済学部教授)

北海学園大学附属図書館報 図書館だより Vol.14 No.1 (通巻121号)

本館 〒062 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 工学部図書室 〒064 札幌市中央区南26条西11丁目  
☎(011)841-1161 本館内線 270~275・279 工学部内線 813・814 印刷所：(株)共同印刷